

会報

No. 23

平成2年11月25日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9

京都府立図書館内

TEL(075)771-0069



挑戦する図書館を目指して

京都市中央図書館長

小島 健 市

本年四月に中央図書館長を拝命して早くも半年になる。辞令をもらったときは正直なところ、はじめての仕事に対して多少のとまどいもあった。しかし教育長の訓示で、従来のやり方に拘わることなく、新しい感覚で仕事を点検して図書館の活性化に努めるようにハッパをかけられた事もあり意を強くした。生来の好奇心も手伝って色んなところに足を運んだり首を突込んだりして貪欲に聞きかじり、又物申したりもした。

最近では、いわゆる図書館界の様子も少しは見えてきた。

これからも足や目や耳をフルに使って、乏しいストックの集積に努めたいと思う。先輩諸氏のご指導ご鞭撻を願ってやまない。

図書館との係わりで思い出されるのは、昭和二十年代の終り頃、私が通った四国の田舎町の高校の近くに市立図書館があつて、学校の帰りによく利用した。三国志や宮本武蔵など長編物に胸おどらせながら友人達と読破競争をやったものだ。今にして思えば当時の田舎町つまり宇和島

市は、こと図書館に関しては京都市など比ぶべくもない、先進都市であつたことにつくづく感心し、大いに感謝している。

さて図書館長の仕事である。図書館法十三条二項では、「館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、図書館奉仕の機能の達成に努めなければならない」とある。前段はともかく職員を監督して、図書館奉仕の機能の達成に努めよとはどういう事か。これも図書館法三条で、図書館奉仕のために実施すべき事項として、図書館資料の収集、整備、提供、相談相互協力、分館、自動車文庫など八項目にわたって例示してある。地域の特性に考慮し市民の要望を踏まえながら、図書館組織としてこれらのサービスを実施して行くための司令官が図書館長の役割と言えようか。

では図書館は何をするところか。立派な建物と多くの図書館資料があり職員が居れば良いというものではなく。幅広く質の高いサービスが実施され多くの市民に利用されてこそ、真の図書館と言えるのではな

いか。町の中にぽつんと建つ記念碑や単なる無料貸本屋であつてはいけない。多くの市民に愛され親しまれるには、何よりも図書館自身が市民を惹きつける魅力を持つほかない。

生涯学習の時代と言われ、図書館の果たす役割に期待されている今日、特に公共図書館としては市民の図書館への多様なニーズに充分応えようと共に入権問題、環境問題、国際問題など人間性に根ざした課題に対する市民の関心を掘り起こすための努力や工夫をより積極的に行う必要があるのではないか。

近頃、あちこちにコンビニエンスストアが新しく開店し売上げの伸びが著しいと聞く。便利で欲しい物があつて新しく良い品が割安だとなれば利用者が増えるのも当然だろう。これらの店は一見して同じように見えるが場所、地域の特性に合わせて重点の置き方が異なり、それぞれの特色がある事に気がつく。周到で綿密な調査に基づいて戦略が立てられ工夫を凝らした積極果敢な戦術によって店が経営されている事は想像に難くない。

新しい時代に敏感に応え、挑戦する図書館でありたいと思う。

A・トインビーも言っている。

「現代は挑戦と応答の時代である」と。

読書週間行事

各地域の催物

文学散歩

向日市立図書館

向日市立図書館では、読書推進事業として開館以来毎年秋に「古典文学講座」を実施しています。

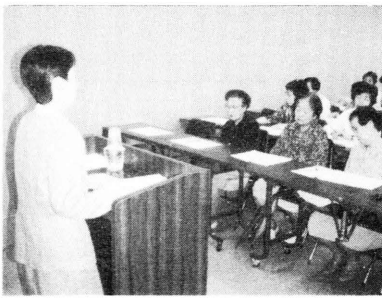
テーマは謡曲、漢詩、俳諧、戯曲等なるべくいろいろな分野でとりあげてきました。今年度は日本で最初の勅撰和歌集である古今集を選び、光華女子大学の内田順子先生にお願いをしました。

副題を「平安人のことばとところ」と題して、

*成立の背景と歌集としての性格

*万葉から古今へ—中国文学の影響をくぐって

*業平と小町



*撰者達

—華やかな修

辞技巧

の世界

以上4回

の講義を

約2時間

ずつ図書

館研修室で行います。



広報紙に募集を出すすぐに定員に達するほど、とても好評です。

また講座の最終回は朝から一日中観光バスで出かける「文学散歩」をいつもセットして受講者に楽しんでもらっています。

今回は、名古屋の徳川美術館で「辻が花」展と源氏物語絵巻の観賞をします。

このように単に本を購入して貸出しを待つだけでなく、潜在利用者も意識して市民を対象により多くの本の利用と、より良い本への結びつけを目的とした事業をできる限り続けていきたいと考えています。

特別展示コーナー

宇治市中央図書館

宇治市中央図書館では、読書週間を記念して、一般書図書展示「あの人この人、親子で活躍」を開催しています。

文学や芸術などさまざまな分野から、親子で活躍する著者の作品を一室に集めて展示しています。

よく知られている吉本隆明と吉本ばなな、壇一雄と壇ふみをはじめ、約五十五組の親子の約千三百タイトルの著書があり、貸出もしています。

親と子それぞれの作品を読み比べたり、視点を変えての本選びなど、ひと味違う読書の世界へ利用者を誘おうと開催したもので、展示コーナーでは来館者がゆっくりと、あの本この本と手にとって、本を選び出しては借りていかれます。

中央図書館では、開館以来、図書展示に力を入れて取り組んで来ました。児童書コーナーは、二ヶ月に一回主題を決めて、職員が知恵を絞って楽しいキャッチフレーズを考え絵本架に手づくりパネルをそえて図書展示。もう三十四回の展示を続けて

きました。

一般書の方も、夏の平和図書展示の他、中断した時期はありましたが主題別図書展示を、秋の読書週間には、フロアに特設コーナーを設けて今回のような大きな企画展示に取り組んできました。

図書展示は、いろんな角度から館の蔵書に焦点をあて効果的な立体展示で図書紹介ができるので、利用者から好評を得ていますし、職員にとっても企画の立て方、本の選び方とおおいに勉強させてもらえる行事です。

この秋はもう一つ、十一月下旬を目標に「外国の絵本コーナー」開設に向けて準備を進めています。市内財団からの寄付金に拠るもので、特徴あるテーマでの図書購入にあててほしいとの申し出に、近畿の公共図書館でも数少ない外国絵本の収集コーナーの開設を図ることになりました。

当面は欧米の絵本が中心ですが、外国の絵本には日本の絵本にはない味わいと雰囲気があり、言葉の壁を越えて大いに利用されることが、開設準備に忙しいこの頃です。

館長の異動

京都市久我のもり図書館

新設 館長 林 義和





第2回生涯学習フェスティバル

図書館法40周年記念パネル討論

図書館づくりの今日的課題

主催：日本図書館協会

全国公共図書館協議会

パネル討論会に

出席して

大山崎町立中央公民館図書室

石井 満紀子

十月三十一日、国立京都国際会館に於いて、日本図書館協会と京都府図書館等連絡協議会との交流会が開催され、京図連から三十八名が参加しました。

今年の交流会は、生涯学習フェスティバルの一環として開かれた、日図協、全公図が主催する「図書館法四十周年記念パネル討論」への参加という形で持たれました。

討論は、今日の生涯学習をめぐる情勢を反映して、図書館を支える職員問題などが活発に論議されました。

なお、これに先立ち、図書館法制定四十周年を記念して、文部大臣による図書館員表彰が行われ、京都府からは、八幡市立八幡市民図書館長澤田種治氏と、福知山市立図書館長橋本實氏が表彰されました。

私は現在、人口一、七〇〇人にみえない京都府南部の小さな町で公民館図書室の嘱託として働いている。地域の人々にとって図書室が日常の暮らしに必要とされ、役立つ存在になるよう心しながら仕事をしてきて気が付くと十二年目を迎えていた。

一人で仕事をするうえでの不安や悩みは、経験豊富な諸先輩の助言や指導を仰いだのはもちろんのことだが、ことあるごとにページをめくった一冊、「市民の図書館（日図協刊）」も、私に自分なりの解決の道を示し

てくれた大切なパートナーである。

公民館図書室として共に活動してきた近隣の市や町にも次々に図書館が建設され、そのニュースを聞いたとき、直接目にしたりする際に、「我が町にも、図書館運営されている図書館を！」の思いを深くしていた私にとって、討論会のテーマである「図書館づくりの今日的課題」は非常に魅力あふれるものだった。

「この図書館は私のものです」と利用者が胸をはって見える図書館づくりをした、茨木文庫連絡会代表の福山恭子パネラー。

「図書館の自由」が侵された事例や、アメリカで、利用者が自分たちの図書館を守るためにたちあがり組織をつくって職員を支えた話をされて、わが国の図書館職員の質の問題を鋭くつかれたジャーナリストの水達郎パネラー。

図書館づくりは人々の交流からと「図書館ができて生きていてよかった」と喜びを語ったお年寄りの話をされた徳島県藍住町立図書館長棚橋満雄パネラー。

図書館運営を行政の立場から話された、枚方市教育長の家高憲三パネラー。

四人のパネラーの皆さんのそれぞれの立場からの提言は、一言、一言

が音をたてながら心の底に積もり、時間の流れを止めた程であった。

討論会を終えて外に出ると、暮れなずむ京都国際会議場を満月に近い月の光が包んでいた。太陽のように強烈ではないが、静かでやわらかく人の心をうるおす月光のような存在でありたいと願いながら「図書館は人なり」とつぶやいていた。

私は今、改めて図書館法の全体を流れる精神の重要性を思い「図書館で働く職員が自らの責任と誇りに於いて図書館を支え、その図書館を利用者が支える」、そんな図書館をつくりたいという願望の種火は、たとえ職場を離れて、利用者の立場になっても決して消してはならないと思っている。



第二回理事会報告

今年度二回目の理事会が、十月三十一日に府立図書館で開催されました。当日は、第二回生涯学習フェスティバルの初日で、会長以下開会式等に出席のため、欠席者が若干名ありました。

今回の理事会では、「予算に関する要望活動」を中心に協議されました。前年度は公立図書館未設置二十五町村に対して要望書を提出しましたが、今年度は、京都府及び公立図書館設置市町に対しても要望活動を行うことになりました。

次に「平成二年度会計中間報告」の提案があり、原案どおり了承されました。

近公図研究会日程

○奉仕部門研究集会

日時 平成三年二月二十日(水)

会場 神戸市総合教育センター

研究テーマ

AV資料の収集と運用(予定)

○整理部門研究集会

日時 平成三年二月一日(金)

会場 明石市立中央公民館

研究テーマ

閲覧用目録のあり方について

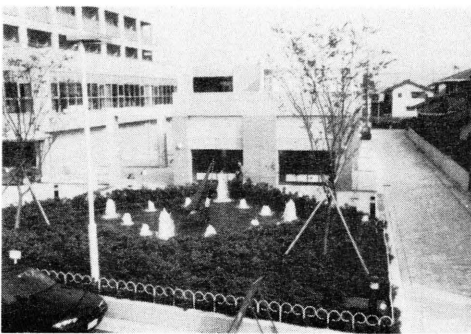
新館オープン

京都市久我のもり図書館

久我のもり図書館は、京都市伏見区久我の杜団地内に地理的条件および交通事情などにより既設図書館の利用が困難な伏見区西部桂川周辺地域をエリアとする十二館目の京都市地域図書館として、本年八月三十日開館しました。

当図書館は、京都市伏見区西部桂川西岸に位置し、西は向日市・長岡京市に接し、北は南区に接しており、農家と新興住宅が混在しています。

近くには京都府警察自動車運転免許試験場・南工業団地・久世工業団地・名神高速道路南インターチェン



ジがあります。また、久我橋羽束師橋周辺は、市内有数の交通渋滞地域で、朝夕のラッシュ時はすさまじく橋を渡るのに一苦勞も二苦勞もしています。

建物の構造は、鉄筋コンクリート造地上二階建て、一階部分が図書館で、二階部分が「久我の杜生涯学習プラザ」の複合施設です。

図書館の延面積は、六〇一、三三、㎡で、図書室面積は、四三五、三八㎡です。蔵書については、計画冊数三万五千冊で、現在は一万六千冊です。

京都市地域図書館としては、初めてコンピュータを導入し、貸出、返却、資料の検索、予約処理業務等の迅速化を図り、また、夜間返却ポストを設け、より一層の市民サービスの向上に努めています。

開館に至るまで、短期間のため時間的制約や、不慣れなどにより、非常に苦勞しました。しかし、開館してみても、来館してくる子供の喜んだ顔をみるといままでの苦勞もふつとんでしまいました。

開館して二ヶ月たった現在、まだ本も少ないですが、利用登録者数は十月末現在で、約四千八百名で、貸出冊数も約二万六千冊と好調な滑り出しています。

まだまだ蔵書は少なく、いろいろと整備していかねばなりません、

これからも職員一同頑張っていくと思います。



京都市久我のもり図書館

〒六二二京都市伏見区久我東町二一六

☎〇七五(九三四)二三〇六

利用交通機関

京都市営地下鉄・近鉄京都線

「竹田」駅下車 バス三〇分

新しくなった図書室の紹介

和知町中央公民館の中にあった図書室が移転し、和知駅前和知町立ふれあいセンター図書室として新しくなりました。

和知町立ふれあいセンター図書室

☎六二九一一

京都府船井郡和知町字本庄小字花ノ木一四

☎〇七七一八(四)〇〇二八

井手町立図書館誕生

井手町立図書館

南山城の中央部に位置し、西に木津川、東は緑深い山なみに囲まれた井手町は、数々の歌詩にうたわれてきた歴史をもつ、人口約九千三百人の町です。

多くの住民からの読書施設の要望に答えるべく、府立図書館の「図書館資料広域貸出事業」を受けて平成二年七月十四日、週二日（土曜日と日曜日）の開室、蔵書数約五千冊の小規模な図書室としてオープンしました。

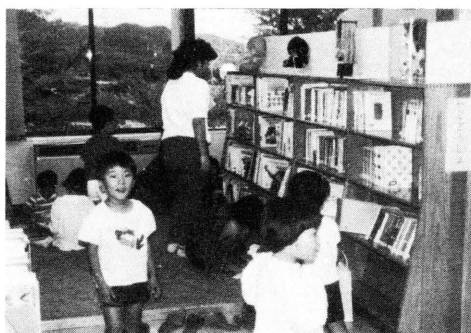
府の移動図書館「あゆみ号」の利用状況を参考にして、児童書を充実するとともに、絵本が寝ころんで読めるじゅうたん敷きの「幼児コーナー」を設置。開室日には絵本を読みながら親と子が触れ合う光景がしばしば見られます。

オープンして約三ヶ月、利用者数は延べ約二千八百人（町人口の約三〇％）貸出冊数は約七千五百冊、一日平均の利用者数は一〇八人、貸出冊数は二九〇冊で、徐々に増える傾向にあります。

宮津市立図書館

図書館めぐり

開室以来、住民からの寄贈書が七百冊を越え、住民にささえられて図書室が歩むという実感をもとに、生涯学習の一つの拠点としての図書室が、住民に魅力があり、愛され、利用されるものとなるよう、蔵書を充実し、広報活動等の住民サービスを展開してゆくつもりです。

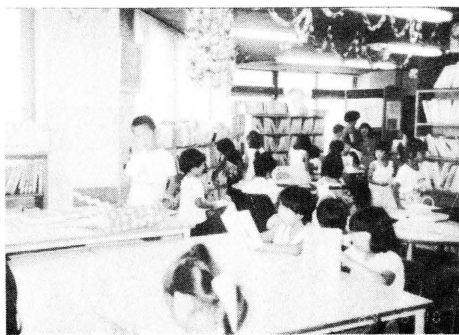


大正十一年宮津町立図書館として開設、昭和四十六年RC二階建館舎を現在地に新築し約六十八年の歩みを重ねております。

蔵書冊数五二、〇〇〇冊の他に旧宮津藩々校「禮讓館」の和漢書、当地方の自由民権

運動の先駆として創設された「天橋義塾」の蔵書など貴重な資料を所蔵しています。

人口約二七、〇〇〇人の宮津市は奉仕区域が広範であり、図書館利用の殆どが旧宮津町区域にかたよっている現状で、平成元年度の館内利用者三〇、〇一七人、貸出利用者一八、五八九人、貸出冊数七一、一五五冊、



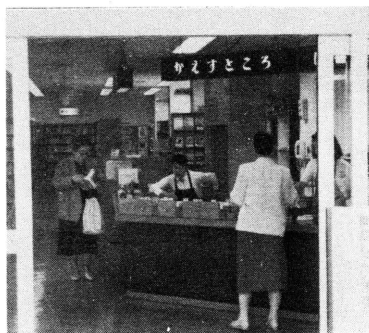
登録者一、八七五人で登録率七％の状況です。

市内小、中学校への毎月一回の巡回配本、家庭文庫への館外貸出し、三地域で開設する夏期林間図書館、読んだ本を絵にする作品展などを実施して図書館に対する関心を深めべく努めています。今後更に、市内全域へのサービスの充実と、登録

京都市北図書館

率一〇％を当面の目標に住民のみにあつて親しみやすく、また、自由時間の増大、高齢化の進行、科学技術の高度化、国際化など社会の進展に応じ、市民の生涯学習を進展させ実りあるものにする上で最も基本的、重要な施設としての条件整備の充実に努力し、市民に喜ばれる図書館として成長してゆきたいと念じております。

いつも十時に開くドアの所に、数人の方がおられますが新着書が出る水曜日は十人以上の人が、ドットと新着の本棚の前に駆込んでこられます。時にはこれらの人達と一緒にトンボや蝶が誘われて入ってきます。今も二つ続きのキノコ字になって、トンボが二匹、天井の蛍光灯にブラ下がついています。



近くの大徳寺や今宮神社の森からやってきたのでしょうか。しばらくすると階下の児童館や幼稚園へ子供を送り出されたお母さん方が幼児連れで来られます。大声を上げて走り回る幼児の姿を、大人が追い駆け回すことが起ります。



午後からは、仏教大、大谷大、産大生や下校した小学生の出番です。それらの間に貸出・返却・レファレンスなど当館の職員総動員で回転していて、腰を下ろす余裕は殆どありません。

昭和五十六年の開館以来八年が経過して地域に密着した図書館になったと言えると思います。定数的に数%の人口減であるのに利用は横ばい、昨年とは僅かながら増加しているこ

とからも判ります。

成人の利用が多い特質から図書館としては、なにより選書、次にカウンターへの応対、そして完全なレファレンスが求められています。

悩みは、催物を行う場所が全くないこと、そして幼児と高齢者として催物への反応が全く逆であること、などです。

八幡市立八幡市民図書館

1階 児童図書室



昭和五十五年に図書館が誕生して今年の十二月で十年を迎える八幡市

では、既に本会報二十一号でニュースとして取り上げられました分館建設も進められ、市内二館と自動車文庫体制で、また新たなスタートラインに立とうとしております。

「市民の本棚」として、模索の日々を経てきた中で、市民の皆さんからまた府下の図書館の皆さんから頂いた宿題も館の歴史が刻まれるうちに、その科目が増えてまいりました。それは、あたかも書架からあふれはじめた資料をもつてしても、つぎることのない図書館機能への期待と同様に、今後も続くことでしょう。

たとえば、自動車文庫については車両での業務がかかえる長所短所の見極め、駐車場所・時間の利用実態に即した改編、積み込み資料の入れ替えなどを迅速に、的確に行うこと。

参考業務にあつては、質問内容にたどりつける手助け、そのための独自資料作りをすすめること。一般貸出業務では、広範な資料要求に対して、限られた条件の下で確実に応えてゆくこと。明日を担う子どもたちに対しては、より好奇心を満たす、魅力ある場とすること。これら総てを市民ひとりひとりに対して保証してゆくことを、決して停滞することなく続けていかねばなりません。

また、もはや単館のみでは図書館



自動車文庫

業務の展開が難しい今日、近隣市町の図書館の発展は当館をも新たな進展へと導くことになるでしょう。市民の図書館であるために、これまでの十年を基にして様々な方策を試行しながら二十年目を迎えたいと考えています。

広報委員会だより

第二回生涯学習フェスティバルを京都府で開催するに当たり、社会教育担当者は全国規模の祭典の催しであるため、日夜その業務に取り掛かり「心豊かな生涯学習時代の実現」を目指し奮闘されました。京図連も事業に参加し、祭典は大盛会で幕を閉じました。情報をお寄せ下さい。